# 柴北川プロジェクト通信　６号（山桜調査編）

平成２１年１２月５日（土）・６日（日）

## １.いよいよ松厳寺裏手の山で、山桜調査を実施

１１月の山桜調査に続いて、山桜調査第２弾を１２月５日･６日と２日間にわたり実施しました。

今回は、前回の調査で入りきれなかった松厳寺の裏山上部をフィールドとして定め、多くの山桜を確認・調査するとともに、松厳寺脇の道路残地における視点場整備の現地確認を行いました。

### ■　12 人の調査員が山腹斜面にはりつき、60 本の山桜を確認。

例によって建コン協会ビル前に９時半に集合した一行（針貝会長、木寺、波木、森脇、矢ケ部）は、8 人乗りレンタカーで一路犬飼町長谷へ向かいました。車窓から見える大分自動車道沿いの山々も、前回には盛りであった紅葉がその名残を見せつつ、少しずつ冬ごもりの装いに変わっていました。

国道 326 号沿いの「あすかうどん」（大分県内でチェーン展開している店）で昼食を済ませて、長谷生活改善センターに１３時前に到着。現地で、濱田、波多野、玉田、幸野が合流し、さらに今回は「大野川流域ネットワーキング」の行動隊長こと三浦さんも参加して、「柴北川を愛する会」の大塚会長、渡邊事務局長を含めた総勢 12 名の調査隊が編成されました。

午前中は少し雨模様もありましたが、午後になって青空が広がり、気温もそれほど寒さを感じさせない良好な天候の下、一行は早速ヘルメット着用の現地調査スタイルに着替え、当日の調査エリアを「松厳寺裏山のピーク下西側尾根」と設定して地図上で場所を確認したのち、車３台に分乗して調査エリアに出向きました。県道から左折して柴北川を渡り林道にとりついて約 5 分、目指すピーク直下の南側林道に車を止めて、そこからは徒歩で山に入りました。

すぐにピーク（標高 286m）に着きましたが、あたりは落葉樹主体の雑木が生い茂る自然林で、向かいの山肌が木々の合間から覗けるだけのあまり見晴らしの利かない場所でした。そんな中、早速に数本の山桜が見つかり、一本一本の木々の計測に入りました。前回の調査隊編成に倣い、山桜の発見とナンバー票の打ち込みを波多野・渡邊（愛する会）が担当し、写真撮影を森脇、ＧＰＳ測定を木寺、幹周計測を玉田、樹高計測を矢ケ部、そして記録を濱田が担当するというチーム編成で進め、その他の者は全体の状況確認を行いながら山桜の発見作業や随時の作業交代を行うという形で、調査２回目と言うこともあって段取り良く調査が進められました。

今回も調査エリアは急こう配の斜面地で、上り下りの足場確保に細心の注意を払わねばなりませんでしたが、山桜以外にも多様な種類の木々が生茂っており、それらを手掛かりとしてバランスを保ちながらの作業が可能でした。樹木に隠れてお互いの姿がよく確認できない中、頻繁に声を掛け合いながら順調に作業が進められました。

調査エリアは、北向き斜面でしたがピーク近くで日当たりはよく、見つかった桜のほとんどが周囲

に茂る太い木々の間から天空に向けて高く枝を伸ばしており、その陽光を受けて成長している様は、強い生命力を感じさせるものでした。なかには、ある程度成長した段階で枯死している桜もありましたが、一方で幹周 10ｃｍ程度の幼木も多く見つかりました。人間社会では少子高齢化により社会集団の存続が脅かされている地域もありますが、そんな人間社会をあざ笑うかのように背後の山中では順調に世代交代が進みつつあり、したたかな自然の営みに感服させられました。

日没が近づく１６時を調査の終了時間としていましたが、群生しているといっても山桜は一本一本が間隔をあけて成長するのでその発見に意外と手間取るなか、調査の段取りを覚えた調査隊は疲れも知らずに作業を続け、結局 16 時半までの３時間で合計 60 本の山桜を確認しました。これ以外にも数本の山桜を発見していましたが、ナンバーテープの控えが無くなったことを理由に調査を切り上げた次第で、調査隊全員一様に満足の表情が浮かんでいました。

林道から帰途についた調査団の車 1 台に、予期せぬアクシデントがありましたが、大自然の中で存分に体を動かして汗をかいた心地よさから、一同皆、「何とかなるさ」という浩然の気で麓の生活改善センターに戻りました。（このアクシデントについては、後日問題にはならないことが判明し、“浩然の気の正当性”（？）が確認されました。）

**ピーク近くの林道で（この後、左の車にアクシデント発生）**

## ■　柴北レディースお手盛りのごちそうに舌鼓を打つ。

黒松生活改善センターに戻った一行を待っていたのは、テーブルいっぱいに並べられたごちそうの盛り付けでした。例によって、柴北レディースの皆さんにより、山の幸を存分に用い丹精込めて調理していただいたもので、夕方からの「長谷地区のまちづくりを話し合う会」を前にして、メンバー一同は大いに喜びかつ堪能しました。並んだ料理は、漬物３種、干し柿を使った酢の物、セロリのあえもの、里芋など具沢山のお汁、生姜の甘煮、おにぎり等などで、山での心の充足に加えて腹の充足にもひたることができ、一同さらなる満足感を覚えた次第です。

続いて 19 時からは同じ生活改善センター内で「話し合う会」が開催され、30 名を超える参加者により活発なワークショップが行われましたが、柴北レディースお手製の料理でパワーを注入したメンバーは、山での疲れもどこへやら、住民の方々との話し合いに精力的にのぞみ、その交流を大いに楽しみました。（話し合う会の詳細は、学校活用編にて紹介）

**レストラン黒松で箸がすすむ**

## ２．２日目も松厳寺裏山を調査し、視点場候補地を踏査。

### ■　松厳寺裏山の山桜探訪に再度チャレンジ。

見事に晴れ渡った翌日６日の日曜日は、長谷小学校で開催される最後の文化祭の日でもありました。

三重町のホテルを９時半に出発した一行は、小学校の体育館で繰り広げられる在校生徒達の演技に感服させられたのち、後ろ髪をひかれながらも会場を後にして、今回はふもとの山道から松厳寺裏山に入りました。（この日は、赤星副会長も現地調査に合流）

道なき尾根で山桜発見

大塚会長（愛する会）の誘導により山裾の民家横に車を止め、山腹を等高線にそって巻くように伸びる山道に入りました。この日の調査目的は、前日調査した裏山ピーク西側とは反対の、ピーク東側における山桜群生地に至るルートの確認です。山道は、幹周り 3～4mはあろうかという杉の巨木が林立する杉林に沿って東側に伸びており、歩くこと 10 分でぶつかった沢のところで途切れていました。

目指す山桜の群生地はこの沢の上部にあると想定されたため、探究心旺盛なメンバー６名が沢のそばの道なき急こう配の尾根にとりつき、竹と雑木の薮中を登ること約 20 分の斜面地で、自生する山桜数本を確認しました。ピークまではもう少しの登りかと想定されましたが、昼からの作業段取りも考慮して、登ってきたルートをトレースしながら下の山道に降り立ちました。今後の山桜調査に向けて、自生地までのアクセスルートが確認できたことは大きな収穫でした。

「あすかうどん」にて

一旦、生活改善センターまで帰ったのち、メンバー一行は当然のように（？）国道 326 号沿いの「あすかうどん」に向かい、福岡国際マラソンのテレビ中継を横目に見ながら熱いうどんで体を温めました。

### ■　松厳寺一帯の視点場整備を検討。

昼食を終えた一行は、長谷地区黒松の県道が柴北川とクロスする松厳寺橋に引き返しました。

この橋からは松厳寺裏山（286m ピーク）が一望でき、早春の山桜開花時に山腹をピンクに染める山桜群生を眺める最高の視点場です。勿論、橋の上では県道を通過する車両の邪魔になりますが、橋の両端の橋詰め部に県有地があり、これを利用することで程よい視点場が確保できます。

橋の周辺では、松厳寺裏山の山裾を巻くように柴北川がU字形に蛇行しており、川の右岸に裏山がそびえ、左岸の丘陵地に松厳寺がおさまっています。橋から南をのぞむと、松厳寺の甍越しに鳥が羽を広げたように裏山の山腹が広がっており、その風景は山桜の開花時でなくとも一服の山水画のような趣を呈しています。

松厳寺裏山（286m ピーク）の全景

橋のたもとの県有地を踏査し、そこから下流に向けて川と栗林で囲まれた快適な散策路が続いていることを確認した一行は、今度は松厳寺に向けて川沿いを上流にたどり、こちらも柴北川の清流と対岸の自然林が醸し出す豊かな自然味を存分に堪能できる散策路であることを確認しました。

橋のたもとの上流側県有地では、「柴北川を愛する会」による花壇の整備が予定されているとのことで、当会のメンバーは下流側県有地を利用した視点場の整備について引き続き検討することとしました。この視点場整備の検討については、山桜班の矢ケ部班長の提案により、当会メンバーによるコンペを現在開催中です。１月２０日が締め切りで、楽しい整備計画の提案がなされると期待されます。

松厳寺の裏手を現地踏査

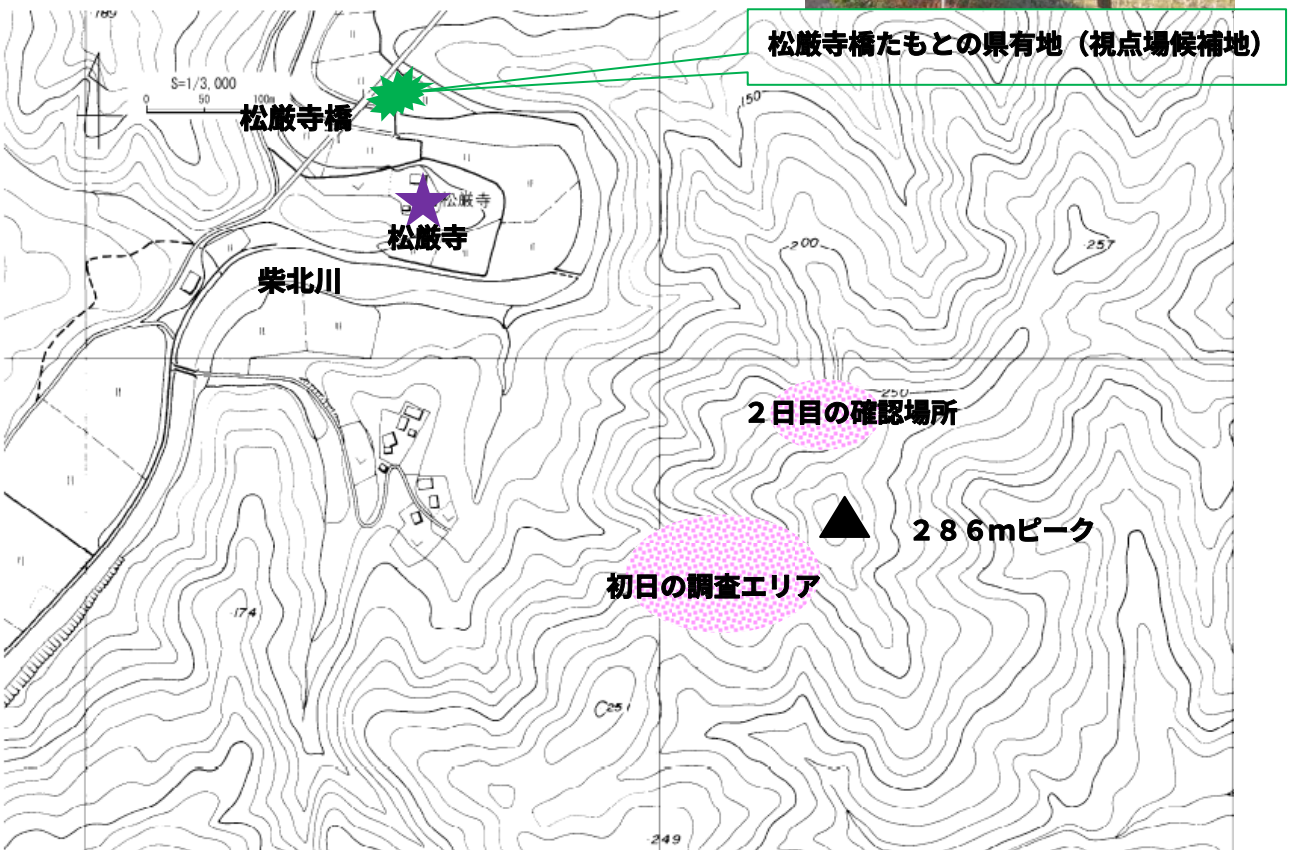
視点場の踏査を終えた一行は黒松生活改善センターに戻り、１５時からの「共助研年次総会」を済ましたのち、１６時半に福岡に向けて帰途につきました。

この年次総会は、共助研設立後１周年目の初めての総会でしたが、本拠地である福岡ではなく活動の場所としての犬飼町長谷で行われ、しかもオブザーバーとして「愛する会」の大塚会長、渡邊事務局長及び「大野川流域ネットワーキング」の足立さんに立ち会っていただいたことは、当会らしい総会としてずっと語りつがれるかもしれません。（会がずっと継続されれば、ですが。）

それにしても、今回の２日間も、長谷は快晴続きで、寒さもたいしたことなく天候に恵まれました。

７月の予備調査から数えると既に 6～7 回、福岡から長谷に通っていますが、晴れなかった日が無いという記録が続いています。我々と長谷地区とは余程相性が良いのでしょうか。

次回の長谷詣では、１月 30・３１日が予定されています。丁度「大寒」の時期ですが、青空の下での雪景色の長谷に出会えるのでしょうか。今から楽しみです。




山桜調査のエリア